

# SRF工法によるクラッシュブルガードレール

## 動機

既存のガードレールはトラックの衝突にも耐えられる波形鋼板が使用されており、衝突角度によっては、はじき返されたり、破断面が突き刺さるなどして、**重大事故**を招いている。

一方、2020年実用化をめどに国や自動車業界で**自動運転システム**の開発が進んでおり今後、ますます安全に逸脱を防止する設備(セーフティネット)が必要となる。



従来のガードレールは、破断して突き刺さったり、跳ね返されて重大事故になったりして凶器になりうる場合もある

## 提案

強度

衝撃吸収

破断防止

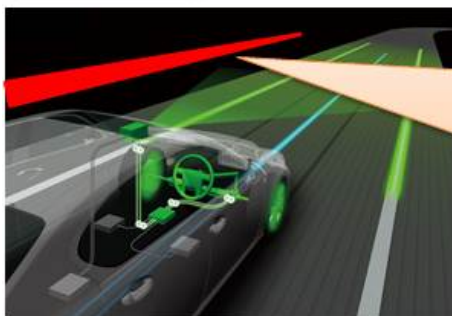


SRF工法により衝撃を吸収し破断や跳ね返りを抑制する



安価なコンクリートパネル（または鉄板など）にSRF工法を施し、強度と粘りだけでなく、破断防止効果を与える。

## 将来性



もしもの場合、安全に車を止めることが重要

自動運転システムの普及には、システムのトラブルに備えたガードレール(セーフティネット)が必須

トヨタ自動車高度運転支援システムより

## 発展性

衝突による衝撃を吸収しながら安全に自動車を止めるシステムは、設備側のクラッシュブルゾーンであることから、鉄道や空港にも応用ができる可能性がある。例えば狭い滑走路での逸脱防止壁など

